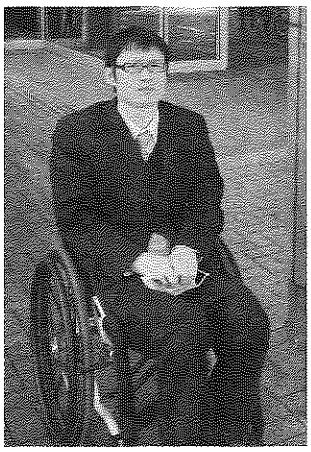
第17号　　令和5年3月発行

熊野身障連だより

熊野市身体障害者（児）福祉連合会
発行責任者　森岡寛佳

市民の皆様へ
身障連会長からのご挨拶



日頃は、熊野市身体障害者（児）福祉連合会の活動にご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

今年度も総会が中止になりましたが、秋の交流会事業は規模を縮小しながらも、開催することができました。

新型コロナウイルスの影響もありますが、感染対策をしながらイベントも行われるようになっており、市内の小中学校への福祉体験授業や防災訓練の参加、そして障がい者スポーツ体験会や市民スポーツ祭への参加など、だんだん元に戻ってきたように感じます。

特に、井戸小学校及び有馬小学校で児童との交流の場を持っていただけたことに深く感謝申し上げます。何と言っても次の時代を担う子どもたちに障がい者やハンディキャップに対する正しい認識を身につけていただければ、必ず差別のない公平社会が来るはずです。

さらに、令和五年度は例年通りの事業を行えるよう進めて参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

熊野市身障連では、新年会、総会、秋の交流会事業などを行っています。事業には関係団体の皆さんも参加していますので、新たな出会いと繋がり、楽しい時間を過ごしませんか。よろしくお願いします。

熊野市身体障害者（児）福祉連合会
会長　森岡寛佳

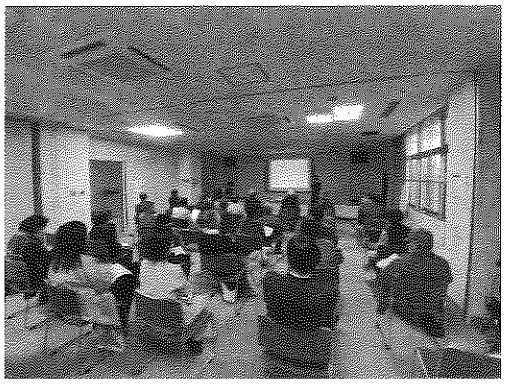
令和四年度役員

会長　森岡寛佳
副会長　井奥つな子
　　細尾せつ子
理事　洞　良夫　九鬼　明
　　谷川絹子　中田重顕
　　中村昭義　野々村勇
　　森脇眞利子　日浦　勲
監事　南　和典　大桑慶子
顧問　谷川充人
事務局　熊野市社会福祉協議会内
　　都竹郁氏

防災講話を開催

令和四年十二月三日、身障連主催の防災講話を開催しました。熊野市防災対策推進課の松口氏に「防災に関して知っておきたいこと」をテーマに講演頂きました。今後予想されている南海トラフ巨大地震や大津波、豪雨災害はいつ起こってもおかしくないと、普段の備えや防災への意識の大切さを強調されていました。

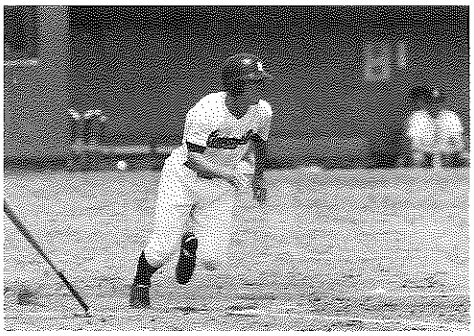
続いて身障連理事の洞氏が、「平成二十三年紀伊半島大水害被災体験」として、自らの体験を通じて水害の恐ろしさを講話。参加者は熱心に聴いていました。



私の生きてきた道

森岡　寛佳

私は熊野市井戸町出身で、小中高は野球をしていて、小学校の時は井戸リトルタイガースでキャプテンをしていました。



大学生の時に交通事故で頸椎を損傷して車いす生活になりました。事故直後には、もう体が動かなくなっていました。最初は麻痺しているだけかなと思っていましたが、何日経っても回復せず、車いす生活を受け入れざるを得ませんでした。腹筋や背筋が無いので、車いす上で屈むと手の力でしか起き上がることができないのです。

入院、手術、リハビリのためにドクターヘリで愛知県内の病院へ転院しました。病院には、同じ車いす乗りで同じ身体の不自由な人が三人いました。いわゆるリハビリのライバルが現れたのです。ライバルがいると、負けられない気持ちから自然にやる気が出て、朝から夕方までリハビリに励むこともありました。だんだん筋力もついて、出来なかった事が出来るようになると自信にもなり、車いすでの行動範囲も広くなってきました。病院へ外出届を出して車いす友達と買い物に行ったりコンサートに行ったり、楽しい時間もある入院生活になっていました。

そして成人式です。会場の市民会館は階段ばかりで欠席しようと諦めていましたが、友達が「支えるから皆で成人式に出よう」と言ってくれて、これほど嬉しい言葉はなかったです。無事に出席することができ、一生の思い出になり感謝の気持ちでいっぱいです。事故、入院、リハビリ、退院まで、たくさんの人に支えられて頑張ることができたので、元気な姿を見せるのが恩返しだと思って過ごしています。

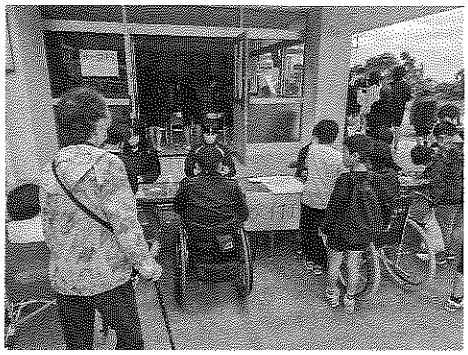
私は車いすに乗っていますが、車を運転して色々なところに出かけることができるし、最近は車いすバスケットに挑戦しています。皆さんにも色々なことにチャレンジしてたくさんの経験をして欲しいと思っています。そして、家族や友人から相談を受けた時は聴いてあげる、一緒に考える、手伝う、後押しする。みんなで協力し合い、切磋琢磨する事を心掛けていただけたらと思います。（小学校での講話から抜粋）

小中合同防災学習に参加

令和四年十月三十一日。木本中学校において、井戸小学校、木本小学校、木本中学校及び地域の方々との合同防災学習会が行われ、森岡会長と大桑監事が参加しました。

「弱い立場に立たされる人に気づくこと」「その人の立場に立って共感的に課題をとらえること」「解決に向けて学習すること」をテーマにしており、障がいがある立場として生徒達の行動や思いやりの気持ちを見ていただきたいと、担当教諭から熊野市社協（事務局）を通じて依頼があり実現しました。

生徒達が主体の訓練はとても新鮮でした。事前に防災知識、避難所運営の勉強もされているようで、声掛けや誘導などもマニュアルを基に進めておられ、「こういうことなのでこうしてほしい」と言うと臨機応変に対応してくれました。大災害等の危機的状況の場でも、相手への思いやり、特に社会的弱者である高齢者や障がい者への思いやりのある社会につながっていけばと思います。



小学生へ福祉講座

井戸小学校・有馬小学校

熊野市社協主催の福祉講座が井戸小学校六年生、有馬小学校四年生を対象に行われ、講師として森岡会長、洞理事（紀南視覚障害者福祉会会長）が参加しました。車いす利用者や視覚に障がいのある人たちへの理解を深め、誰もが住みよいまちづくりに取り組まれています。

洞理事が、目の不自由な人には全く見えない人と、少し視力の残る弱視の人がいることを話し、自分の体験から三十歳で目の病気をして視力は少し残っているものの視野が狭まっていること、盲学校で鍼灸マッサージの資格をとって現在介護施設で働いていることを話し、目に障がいがあっても働いて生きていけることを話しました。

続いて森岡会長から、大学生のとき交通事故で頸椎を損傷し下半身マヒになったこと。大勢の人に助けられつつ、厳しいリハビリを重ねて現在は自動車も運転して、社会生活を営んでいること（詳しくは二面参照）を話しました。

この後子どもたちには、アイマスクをつけて階段や障害物を避けながら歩くブラインドウォークや、車いすを体験してもらいました。ブラインドウォークでは段差が大変なこと、車いすではほんの少しの段差や窪みも通行の妨げになることなど身をもって知ってもらうことができたようで、嬉しく思いました。将来を担う生徒たちに、障がいについて正しく知ってもらうことが私たち障がいを持つ者の希望につながります。

生徒たちが書いてくれた感想文を全部紹介したいですが、誌面の都合上、井戸小学校の許可を得た六人分だけ掲載させて頂きます。（なお、有馬小学校の生徒の皆さんからも感想文をいただいています。感謝申し上げます）

○森岡さんへ

福祉体験で車イスをおすとき、段差を越えるのがとても難しかったです。なのに森岡さんは、すらすらいけてて、すごいと思いました。今日は福祉体験で大事なことを教えてくれてありがとうございました。（伊藤未梨亜）

いろいろ教えてくれてありがとうございました。障がいを持った人の大変さが分かりました。もし、身体に障がいがある人に出会って、困ってそうだったら手伝おうと思いました。いろいろなことを学ぶことができました。（河上莉音）

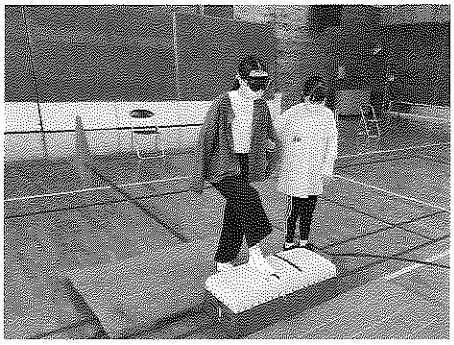
手足が不自由でもいろんなことにチャレンジするすがたにとても勇気をもらいました。これからもたいへんだと思うけどがんばってください。（野地晴道）

○洞さんへ

福祉体験ありがとうございました。目が見えないとすごくこわいことがわかりました。もし目があまり見えない人がいて困っていたら「だいじょうぶですか」「手助けしましょうか」と声をかけようと思いました。（瀧谷さわね）

今日はいろいろ教えてくれてありがとうございます。二時間の間、たくさん知りたかったことが分かったので、洞さんに感謝しています。私は目が見えないだなんて考えられなくて少し不安だったけど、洞さんがとても笑顔でとてもやさしい人だったので安心できました。ありがとうございました（山口七菜）

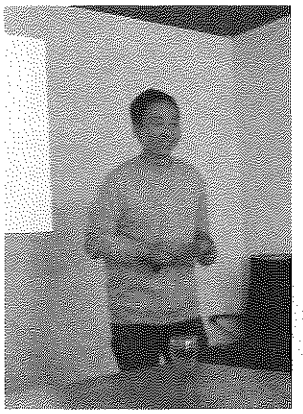
目の不自由なのは最初から大変なのは分かっていましたが、今日の体験をして、より大変なのが分かりました。特に段差をのぼるときは、いつくるのか分からなくてとてもこわかったです。貴重な体験させていただいてありがとうございました。（平嶋ひびき）



「ごちゃまぜ」

仏子園見学記　中田　重顕

晩秋のある日、石川県白山市にある障がい者施設「仏子園」を見学に行って来た。きっかけはこの施設の施設長をしている、阿田和中学校出身の速水健二さんの講演を聞いたことによる。健二君と呼んだ方が親しみがあるのだが、彼が中学生の時、私は阿田和中学校の事務職員をしていた。健二君をよく覚えているのは規格外の剽軽なところのある生徒だったからである。



速水健二さん

その彼が、今は誠に先進的な障がい者施設のリーダーになっているのだ。健二君の案内で、仏子園が経営している施設を見学した。それは驚くべき理念で貫かれていた。行き渡っているコンセプトは「ごちゃまぜ」なのである。障がい者施設はごちゃまぜの町の中にある。理髪店、居酒屋、銭湯、蕎麦屋、クリーニング店、高齢者サービス施設、学生寮何でもある。そして、どこでも障がい者が健常者と混じって生き生きと暮らしている。私の世代の感覚ではまさに「障がい者解放区」なのである。

施設の中に街を取り込んでいるのだから、障がい者と町の人が毎日行き会っている。故に、差別などあるはずもない。レストランや居酒屋の従業員は知的障がいや、発達障がいの人だったりする。間違いもミスもある。それは町の人も含めてみんなが分かち合う。健二君は若き施設長としてその先頭に立っている。

「障がいのある人たちが外に出ると、ここではシニアの方たちも、学生さんも、居酒屋や銭湯を利用しに来る地域の人たちもいて、その人たちを受け入れ、対話をしてくれる。いろいろな人たちとの関係性のなかで成長していくことができるのです。」と健二君は語る。仏子園では、近くの無人駅の運営も請け負っている。駅内にはしゃれたコーヒー店もある。その駅の清掃もコーヒー店も障がい者がしているのである。ゆっくりでいい、間違えればなおせばいい。

先日、朝日新聞が「街の再生へごちゃまぜ」という見出しで仏子園の経営する「輪島カプーレ」を大きく取りあげていた。ごちゃまぜ思想が全国に広がってくれればどんなに良いだろう。

（仏子園提供）

九鬼都代美さん表彰

有馬町芝園の九鬼都代美さんが、令和四年十一月二十七日、第六十八回三重県身体障害者福祉大会において、身体障害者団体育成に功績があったとして表彰されました。

都代美さんは昭和三十二年、育生町赤倉において生まれました。足に障害があったので、交通機関の無かった赤倉での暮らしは困難があったそうです。小学生の時、津市の肢体不自由児養護施設「草の実学園」に入園し、治療とリハビリに取り組まれました。

昭和五十五年に同じ障がい者仲間の九鬼明さんと結婚。二人の男の子をもうけ育てられました。自らもスーパーなどに勤め、明さんと二人三脚で歩んできました。

障がい者サークル「雑草の広場」の会員として、障がいをもった仲間たちと支え合ってこられ、とても優しい性格なので、今も障がいをもった仲間たちが遊びにきたりするそうです。

今は三人の孫にも恵まれ、穏やかで幸せな日々を過ごされています。今回の表彰については「特に何をしたわけではありません。障がいをもった仲間たちと励まし合って生きてきただけです。仲間たちみんなが表彰されたのだと思っています」と語っていました。